



# SENSHOJI 2021 YUKARI NEWSLETTER

since 1994

TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883

ゆかり通信

VOL. 276

令和 3 年 1 月

北海道千歳市清水町1-14 鶴寶山 千正寺

ホームページ <http://sensho-ji.net/>

フェイスブック @Senshoji

## 2021千正寺カレンダー 1月の言葉



水仙

「さよなら」と言えるだけでも幸せ、  
「またね」と言えたらもっと幸せ、  
「久しぶりね」と言えたらもっともっと幸せ。

(佐賀のがばいばあちゃん)

1月の言葉は、漫才コンビ「B&B」の島田洋七さんが、少年時代を佐賀で過ごした当時の出来事を書いた自伝小説『佐賀のがばいばあちゃん』の言葉です。貧乏で苦勞人のばあちゃんの型破りで、それでいて温かい言葉がちりばめられています。

『「さよなら」と言えるだけでも幸せ』…この世は諸行無常。いつ別れがやって来るかもわかりません。

『「またね」と言えたらもっと幸せ』…再会が約束できる別れは、それだけで幸せなんですね。

『「久しぶりね」と言えたらもっともっと幸せ』…そして約束通りに再会出来たならば、どれだけ幸せなことでしょう。それなのに私達は「また会える」「必ず会える」と、ついつい錯覚してしまっているのですね。

「行ってきま〜す」あの一言が、あの子と交わした最後の言葉でした…。

「もっと優しくしてあげればよかった」「ちゃんと『有難う』って言ってあげばよかった」二度と会えなくなってしまってから、いくら後悔しても、遅いのです。

しかしお釈迦さまは、そんな私たちに「必ず終わりが来るのですよ」とお諭しです。阿弥陀さまは「どうか、お念仏を申して生きておくれ」と呼びかけて下さっています。

「あなたの命、決して虚しく死んで行く命ではありませんよ」

「先立って往った人々とも、再びお浄土で、再会させますよ」とお誓い下さいます。阿弥陀経には、これを『俱会一処』とお説きです。

以前はよく千正寺にお参り下さっていたあるお檀家さん。先日ご往生なさいました。92歳でした。その三七日のお参りの時、その方の息子さんが、ポツリとこう言われました。ご主人「二七日の夜、珍しく息子の夢を見ました。『お婆ちゃんと会えたよ』って言ってました。」

10数年前、事故で亡くなられた20代のお孫さんと、92歳の婆ちゃん…、お浄土で、久しぶりの再会を果たされたのです。

「久しぶりね！あんた！あんまり早く往っちゃうもんだから、ばあちゃん辛かったよ〜」僕は只々、涙を堪えるのがやっとでした・・・南無阿弥陀仏。